

## マイノリティー受験

こんにちは。森村学園105期卒業生の木村実歩です。森村学園には初等部から高等部2年生まで在籍していて、約2年前に父の仕事の都合に伴いアメリカのジョージア州に引っ越してきました。私は今、現地の高校に通っていて、夏からお隣のアラバマ州の大学に進学します。今回は私の受験がどのようなものだったかを①受験に必要なだったこと、②志望校の決め方、という2つのテーマに沿って皆様にお伝えします。自分の意志での留学ではなかったため渡米のタイミングも場所も私が決定したわけではありませんでした。イレギュラーな渡米、受験でしたが私の経験が後輩の皆様にも少しでも勇気を与えられるものになればと思います。

### ①受験に必要なだったこと

まずは、アメリカの大学に進学したいと思ったときに出願に必要なだったものを書かせていただきます。主に、試験のスコア、GPA、推薦状、エッセイがアメリカのほとんどの大学に進学するために必要なものです。ここで、タイトルにもある通り私はアメリカの大学に出願する中では「マイノリティー」にあたるinternational studentという枠で出願する必要があります。この文章を読んでくださっているほとんどの方がアメリカという国にとってマイノリティーであり、大学にとってはinternational studentです。つまり、大学のホームページのapplyというページを読んでも必要事項が異なるので要注意です。私はinternational studentの必要事項が何なのかを調べるのに半年ほどかかったので、本当に必要なものは何かをじっくり調べてリストを作ることをお勧めします。試験のスコアですが、私はSATとTOEFLの2つの試験のスコアを使って受験をしました。SATというのはアメリカの共通テストのようなもので、英語と数学の試験です。しかし、やはりSATの英語で高得点を出すのはとても難しくinternational studentは自分はこれくらいの英語力があります！と大学にアピールするために、もう一つ英語の試験を受ける必要があります。TOEFLやIELTSなど方法は様々ですが必ずどれか1つのスコアを提出する必要があります。(この英語の試験のみでOKなところもあります) GPAは高校生の時の成績をもとにしたスコアです。ここで気を付けなければいけないのが、日本とアメリカの高校の違いです。日本は3年間なのに比べてアメリカの高校は4年間あります。そのため日本の中学3年生の成績表も必要となります。私は中学3年生と高校1年生の時の成績表を日本から持って行って提出しました。高校生の時の成績は大学受験にとっても大きく影響するので、アメリカの大学に進学を考えている後輩の皆さんは中学生の時から頑張って成績を保ってくださいね。(私はこれでもものすごく苦労しました...)推薦状は何のために必要かというとacademicな部分以外の自分の実績を大学にアピールするためのものです。私はアメリカに来てからお世話になった先生に私の英語力の向上について書いていただき、森村学園に在籍していた時に担任をしてくださっていた先生に当時の部活動や行事等について書いていただき合計3枚提出しました。エッセイは、大学によってテーマも長さもバラバラです。また、このエッセイに関してはマイノリティーかそうでないかは関係ないので個人の文章を書く力によると思います。私は渡米してからどのような苦労があってどのように乗り越えたのかを書きましたが、どのようなテーマであろうと周りの信頼できる方に添削してもらうのが無難な方法だと思いますので、期日の数か月前から書き始めることをお勧めします。自

分がマイノリティーであるためにアメリカ人の友達よりもやることが多く時間がかかりましたが、深呼吸をして1つずつこなしていけば難しいことはありませんでした。大事なことは自分に何が必要なのかをよく見極めることです。

## ②志望校の決め方

志望校を決める時にも自分がマイノリティーだと感じる場面が何度もありました。まずアメリカの大学を受験するときに学部を選択することはありません。出願時に興味がある分野を選択しますが、その回答が受験結果に影響することはありませんし後から変えることもできます。そして、なぜ私がアラバマ州の大学を選んだかを説明します。アメリカの大学に入学したら必ず1年目は学生寮に入ることになり、長期休みになると実家に帰って過ごすことが一般的です。そのため、ほとんどの学生は自分が住んでいる州内の大学に進学します。アメリカの大学は州内からの学生か州外からの学生かで学費が大きく変わるというのも理由の1つです。しかし、私はinternational studentの枠なので州内外は関係なくジョージア州から近いアラバマ州、テネシー州、フロリダ州の範囲で大学を探しました。また、アメリカの大学は学校の大きさによって部活やイベントも異なり、個人的に大きな大学に進学したかったので学生数も大学選択の決め手になりました。そして、少し先の話になりますが、アメリカではみんなが同じタイミングで就職活動をするわけではありません。Visaの関係などで私は大学を卒業する1年前には就職先が決まっている必要があり、州の中でもある程度都市部のインターンシップ先を見つけやすい地域の大学に進むことも譲れないポイントでした。

ここまで読んでいただきありがとうございました。渡米をしてから自分がマイノリティーであることを自覚しながら過ごしていましたが、確実に大学受験がそれを感じた大きな出来事でした。しかし、日本人というアイデンティティーを持ちながら日本とは違う多民族国家での生活は毎日が新しい発見でとても充実しています。夏から始まる大学生活もどんな人と出会って何を学んで自分がどんな感情になるのか、今からとてもわくわくしています。私の受験体験記が海外の大学への進学を考えている後輩の皆さんの道標になることができたらうれしいです。何か質問がありましたら気軽に先生方を通して聞いてくださいね。Be ready for a new journey.

